

その常識、間違っている!?

大動脈の病気のホントのはなし



大動脈解離や大動脈瘤に、前兆となる症状はある？

大動脈瘤の「瘤」は、血管に入って来る異物のこと？

年齢が若い場合は、大動脈の病気にはならない？

大動脈瘤や大動脈解離は再発しやすい？



監修 園 茂樹先生

宇都内科小児科医院院長、総合内科専門医、医学博士。1982年日本大学第一内科大学校修了、カナダ州立オンタリオがんセンター留学、京都中央病院内科部長、千代田県方クリニック院長を経て群馬、東京南宇にも詳しい総合内科専門医として幅広い診療をモットーとする。著書に『糖尿病は脱水化糖コントロールでよくなる』(合同フォレスト)など、取材協力：ティーベック株式会社

大動脈に瘤ができ、大きくなると破裂のリスクもある「大動脈瘤」や、大動脈の血管壁が剥がれる「大動脈解離」はどちらも重大な病気ですが、自覚症状がありません。そこで、総合内科専門医の園茂樹先生に、大動脈の病気の特徴や原因、そして予防策などについてうかがいます。

大動脈の病気にもつわる 疑問

大動脈解離や大動脈瘤に、前兆となる症状はある？

大動脈解離は、解離してはじめて激しい痛みを感じるようになるため、前兆は基本的にはありません。大動脈瘤も、自覚症状なしに大きくなっています。

大動脈瘤の「瘤」は、血管に入って来る異物のこと？

大動脈瘤とは、異物の瘤ではなく、大動脈の壁そのものが弱って、腫れて瘤になっている状態のことです。大動脈瘤の直径が5cm以上になると破裂のリスクが高くなります。

年齢が若い場合は、大動脈の病気にはならない？

加齢によって大動脈の血管壁が弱り、大動脈解離や大動脈瘤が起きやすいことは確かです。しかし若い人でも、高血圧や高コレステロール、糖尿病、喫煙などの理由で大動脈の病気が起こる可能性があります。

大動脈瘤や大動脈解離は再発しやすい？

大動脈瘤や大動脈解離が起きたということは、大動脈が傷んでいたり、弱っていたりする証拠。そのため同じ部分や、付近の箇所でも再発する可能性が高くなります。

予兆なしに発症する点が危険。まずは丈夫な大動脈づくりを

心臓から全身に血液を運ぶ動脈。その中でも、胸からお腹にかけて通る、太い動脈が大動脈です。大動脈の病気の例として、大動脈瘤と大動脈解離があります。大動脈瘤とは、大動脈の壁が弱って腫れる病気。瘤は自覚症状なしにどんどん大きくなり、破裂する命にかかわります。大動脈解離は、大動脈の内壁に亀裂が生じて、内臓の外側にある中腸が引き裂かれ、血管壁が2つに割られる病気です。解離した大動脈は破裂する危険性があり、心筋梗塞や足のしびれといった合併症も起きやすくなります。時間が経つと解離した部分が腫れると、解離性大動脈瘤(大動脈瘤の一種)ができることも。

大動脈瘤の破裂や、大動脈解離の危険な点は、どちらも前兆がなく、発症した時にはすでに危険な状態になるというところ。一度解離や破裂の起きた大動脈は再発もしやすくなります。大動脈の病気の主な原因は、高血圧や高コレステロール、喫煙などによって大動脈が弱ることにあります。そのため、予防策の第一歩として、規則正しい生活を送ることが重要。なお、大動脈瘤は大きくなる前に見つければ、破裂の前に手術や薬で対処することも可能です。大きな大動脈瘤は、胸のレントゲン、お腹の超音波検査、脳

大動脈の病気の基礎知識

大動脈とは… 動脈の中でも、胸からお腹までを通るもっとも太い通り道を大動脈といいます。

大動脈瘤・大動脈解離の原因

下記のような原因で血圧が高くなったり、血管そのものが弱くなったりすると、大動脈瘤や大動脈解離などの病気につながります。

大動脈の病気の原因につながる

加齢
高コレステロール
喫煙
大動脈の持病など



具体的な症状は？

大動脈瘤の症状は基本的にない

大動脈瘤が大きくなる過程で自覚症状はありませんが、大動脈瘤が5cm以上になると破裂のリスクがあるといわれています。破裂すると致死率も高くなります。

大動脈解離の症状は「突然の激痛」

解離が起きた箇所が突然、激しく痛みます。急な痛みに関わるという意味では、心筋梗塞や急性腎臓炎、弱血圧高血圧、食道破裂などと間違えられやすいものの、いづれにしても、本人がだごとくでないと感じるような突然の痛みは危険な状態。すぐに救急車を呼びましょう。

大動脈瘤と大動脈解離の治療法

- 大動脈瘤や大動脈解離が始まると、入院や通院で状況を詳しく判断します。場合によっては瘤を取り除く手術や、人工血管を入れる手術をすること。
- 一度できた大動脈瘤が小さくなることはないため、薬で血圧を下げたり、瘤の大きさによっては手術で取り除いたりすることになります。
- 大動脈解離も、一度解離した血管が元に戻ることはありません。割れたところから別の通り道ができ、血液自体は問題なく流れるケースもありますが、手術で人工血管を入れることにもなる場合があります。

予兆のない大動脈の病気… 対策できることは？

音波から丈夫な動脈をつくるのが予防策になります。

予防法① 生活習慣の見直し

高血圧や高コレステロール、喫煙などによって血管が弱ると、大動脈瘤や大動脈解離の原因につながります。

予防法② 血管の状態をチェック

医療機関での血管年齢チェックは、血管の状態を確かめる上でよい機会に、血管年齢が若いという結果が出た場合は大動脈の状態も悪化している可能性があるため、大動脈に病気が隠れていないか、詳しく検査を受けてみると安心です。